



ホストファミリーと初体面

カンボジアの風を瀬戸内に 少年少女カンボジア国際交流事業

少年少女カンボジア国際交流事業でカンボジア王国シエムリアップ州から4人が市を訪れ、1月20〜23日の4日間、市内にホームステイし、市内の児童や生徒、市民と交流を深めました。

訪れたのは、小学生のセット・ジューム君(16歳)と高校生のタイ・チャノン君(18歳)、アンコール中学校のベック・ソウピアアラ校長(38歳)、ワットポー小学校のペウ・キムチェン校長(45歳)の4人。NGO C.V.S.G JAPAN「カンボジアの村を支援する会(倉敷市・村田みつお代表)」の仲介で実現しました。



寒風陶芸会館でホストファミリーの川野さん(左)と土ひねりに挑戦するソウピアアラ校長(中)



牛窓西小学校で懸命に習字にチャレンジするジューム君(右)とキムチェン校長

ジューム君は、カンボジアの村を支援する会が現地で運営するレストラン学校で、小学校に通いながら接客、調理、外国語などの研修を受けています。チャノン君も同会が運営する子どもセンターで、大学を目指して勉強しています。20日、4人はホストファミリーの皆さんと寒風陶芸会館で土ひねりに挑戦した後、オーリーブ園や備前長船刀剣博物館などを見学。21日は、ホストファミリーと一

緒に楽しく終日を過ごしました。ジューム君とキムチェン校長は、22日に牛窓西小学校、23日に牛窓中学校を、チャノン君とソウピアアラ校長は、22日に邑久中学校、23日に今城小学校をそれぞれ訪問。パソコン室や音楽室など施設の説明を受けた後、授業を参観し、習字やお雑煮作りなどそれぞれの学校で子どもたちと楽しい時間を過ごしました。「カンボジアの学校は、国語と算数を中心。図画や音楽の時間はありますが、教える先生はいません。日本の学校は素晴らしい」とキムチェン校長は話していました。



邑久中学校の岡本幸子先生から琴を教わるチャノン君(右)

災害のない平穏な年に 消防出初め式

邑久町公民館で1月21日、消防団員ら約500人が出席し、消防出初め式が開催されました。

開式の辞の後、藤原和正消防本部消防長が「地域防災の要として一致団結し、市民の安全と安心を確保するようさらなる努力と精進をし、災害のない平穏な年となるよう祈念します」と式辞を述べました。



県知事表彰の表彰状を受ける牛堂さん(右)

その後、新入団員に辞令が交付され、牛堂和一郎さん(47歳・牛窓町鹿忍)に岡山県知事表彰の功労賞をはじめ、92人と1団体に表彰状や感謝状が授与されました。消防団員の皆さんは、地域の安全のため日夜活動しています。市民の皆さんも、火事など出さないよう、日ごろから防災意識を持ちましょう。



引き締まった表情の消防団員の皆さん

冬の味覚を満喫 かきまつり

邑久町漁業協同組合主催のかきまつりが1月28日、虫明地区の同組合前広場で開かれ、栄養満点の冬の味覚を求めて、大勢のお客さんににぎわいました。

市価の3、4割引きとあって、午前9時の開始前から売り場は長蛇の列。販売開始と同時に、一斗缶の殻付きカキやむきカキは、飛ぶように売れました。

また、「千円でバケツへカキ入れ放題」コーナーや、カキみそ汁・蒸しガキの試食コーナーも大盛況。訪れた皆さんは、「カキは十分加熱すれば、安全安心です」と無料で振る舞われたカキをおいしそうにほおばり、思い思いにまつりを満喫していました。



長蛇の列が続いた蒸しがキの試食コーナー



温かいカキみそ汁は、子どもたちにも大好評でした